



# からしだね

2021年4月号  
(569号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



## 本号の記事の主題など

ノノイ・プラザ神父による巻頭言  
「善良な人に邪悪なことがおきるとき」

4月のガラスケースのみことば

財務こぼれ話 第一回

4月の行事予定

みんなの談話室

「池田教会に桜があった頃」

「墓をあばく」

「故ジョアンネス高橋正美さんを偲んで」

「高橋さんへ」

2021年度のアルフア・コースを始めます

今月の表紙の写真について

## 巻頭言

## 善良な人に邪悪なことがおきるとき

ノノイ・プラザ 神父

『善良な人に邪悪なことがおきるとき』、これは1981年に評判になった本のタイトルです。当時わたしは大学を卒業したばかりでした。不治の病のため、息子さんをととても若くで亡くしたユダヤ教のラビが書いたこの本は、何か月もニューヨーク・タイムズのノンフィクション・ベストセラー部門賞を圧倒したということでした。

まことに個人的な、このような苦しみに襲われたラビ・ハロルド・クシュナーは、永遠の問題である悪の存在が、おなじように長いあいだ信じられてきた愛と慈愛に満ちた全知全能の神の存在とどのようにかかわるのか、あるいは対立するのか、なんとか理解しようとしています。

クシュナーの信仰上の葛藤を質問形式にすると、こんな風になるでしょう——もしも愛に満ち全知全能である善良な神がこの世をつくって支配しておられるのなら、どうしてこんなに苦しみが多いのか？なぜ悪が存在するのか！ほかでもない彼の場合でいうと、どうして息子はこんな若さで苦しみをうけ、死なねばならないのか、ということになるでしょう。

最近ではなんでも制約を受けて仕事はなくなるし、世界中でコロナウイルスが引き起こしてきた人々の死をまえにすると、誰だってあれこれ思いを巡らし、「神さん、あんたは（ほんとに）そこにいるのかい？」と尋ねてみたくなります。というわけでクシュナーがこの本を書いてから30年ほどが経ちましたが、この質問はある意味いまも変わっていない、というのも人は相変わらず悪と苦しみから逃れられていないから。

こんなわけで現代版旧約聖書のヨブが時に



応じてたくさん現れ、キリスト教信者にたいし、神は存在するというかれらの中核的信仰に異議を唱えても、驚いたりショックを受ける人もいないのです。これほど悪が世界中に蔓延しているのですから、現代のヨブたちは信者たちにこう尋ねるだけでいいでしょう——「みんながほんとうに神を必要としているときなのに、君の言う神はどこにいるの？善良な人が苦しみ死んでゆき、そのせいで家族が崩壊してしまうのに、神が介入してくれないとは恐ろしい不公平じゃないか？」

こうした背景を背負うなかで、わたしたちは聖週間とそれにつづく復活祭の季節へと入ってゆくのです。だれにとっても去年はほんとうに辛い一年でした。一年の痛みと苦しみを振り返りながら、主イエスの人生、それも特に受難と死に照らして、わたしたちが学ぶことができるのは何でしょう。御自身も「わが神、わが神、どうしてわたしを見捨てられるのですか？」（マタイ27:46）と叫ばれたうわべの苦しみに、イエスはどのように打ち勝たれたのでしょうか。

この問題を扱った箇所がカトリック教会のカテキズムには見つかりません。小見出しには「摂理と悪のつまずき」とあります。この小見出しの直後「309」番は、この問題を認めることから始まります。引用してみましよう――

「秩序あるよき世界の創造者たる全知全能の神が、被造物すべてをいつくしんでおられるのなら、なぜ悪が存在するのか？喫緊で避けることも難しく、苦しみをともなう謎めいたこの問いには、簡単に出るような答えはどんな答えも十分とは言えません。全体としてのキリスト教信仰だけが、問いへの答えとなるのです――創造そのものの良さ、罪のドラマ、契約に基づいて人のもとにお越しになった神さまの根気強い愛、贖（あがな）いとなる御子の受肉、聖霊の贈り物、教会の集まり、秘跡の力、自由な被造物があらかじめ納得できるように勧められてはいるが、しかし恐ろしい謎によって、その被造物が前もって背を向けてしまうことも可能な祝福された生活へのいざな

い。悪の問題にたいして、これらのキリスト教メッセージはどの側面をとっても部分的な答えとはなっています。」

イエスと同じように、わたしたちは自分の個人的な生活にあつてあれこれと傷ついてきたかもしれない。なぜなのかは理解不能。だから暗闇のなかで光が最後には見えてくるようにと祈るのです。その信仰の光は、おそらくナチの強制収容所で殉教したカルメル会の聖エーディト・シュタインがこう言って示されたものに似ているかもしれない。

「わたしの計画にはなかったものが神の計画には存在するのです。こうしたことが、もっと頻繁にわたしに起きれば起きるほど、神の立場からすると偶然であるものはありえない、というわたしの確信は強烈になってゆきます。」

みなさんすべてに喜びの復活祭が来るよう心待ちにしております。



広報委員会による註：『善良な人に邪悪なことがおきるとき』は『なぜ私だけが苦しむのか 現代のヨブ記』（H. S. クシュナー著 斎藤武翻訳）というタイトルで岩波現代文庫から出版されています。

4月のガラスケースのみことば

神に生きる人には欠けるものはない。

神のみにてたりる。

アビラの聖テレジア

（福音宣教委員会撰）

**財務こぼれ話 第一回 財務委員会**

池田教会の皆様、いつも教会の財務活動にたくさんのご協力を頂き、ありがとうございます。

財務のお手伝いをする中で、教会のお金に関わることで自分も知らなかったことがたくさんあることに気づきました。きっと皆さんも教会のお金のことで、よく分からないことや、疑問に感じて聞くに聞けないことがあるのではと思うようになりました。

教会でお金の話なんて…と思われる方もいらっしゃるでしょう。でも、どんな活動も資金なしでは成り立ちません。そこで、教会のお金に関わるちょっとした話を書いてみたいになりました。

たいしたことは書けませんが、教会のお金のことが少し身近になれば嬉しいです。

初回は財務が毎日曜日に行っている仕事についてお話しします。

主日のミサ後、財務のメンバーは事務室に集まって、前日土曜日の夕方のミサと、日曜日のミサの時に集まった献金袋等の整理と聖堂内で集めた献金（堂内献金）の整理をします。また、教会の様々な仕事（各委員会の活動や、教会の維持管理など）の為に使われたお金の精算もします。そして、精算された残金はその週のうちに銀行

に納められます。これを財務は毎週繰り返しているのです。

昨年コロナでミサが中止になった時、たくさんの方々から献金をどうすればよいでしょう、とのお問い合わせを頂きました。ミサがなくても通常の支出はありますので、皆様のお気持ちが本当にありがたかったです。神父様にお願いして、司祭館のお玄関に献金箱を置かせて頂きました。そして、日曜日に代えて、4月と5月に1日ずつ献金整理の日を設けました。献金の整理をしながら、一日も早いミサの再開を願いました。

毎週の献金整理ができることが、どれだけ幸せなことかを気づかせて頂いた1年でした。

**4月の年間行事予定**

- 4/1 聖木曜日 17:00から。
- 4/2 聖金曜日 17:00から。
- 4/3 復活徹夜祭 17:00から。
- 4/4 復活祭ミサ 8:30及び10:30（初聖体を含む）。復活祭パーティーは中止。
- 4/17 合同お泊まり会が中止。

\* 3月28日の時点では年間行事予定表は公表されていませんが確認された予定を表示しています。

**みんなの談話室**

池田教会に桜があった頃（2008年4月6日） K.I.



## 墓をあばく 直

骸(むくろ)を墓におさめて二日後、イエスの体に香油を塗ろうと婦人たちは墓に急ぐ。ところが入り口をふさいでいたはずの「ひじょうに大きな石」が転がされている。なかに入るとなきがらはなくなっていて、白い衣の青年(天使)がイエスの復活を告げる—四福音書のなかで、成立年代がもっとも早く、それだけ物語の風化度が低い『マルコ』はそう語る。だれが石を動かしたのだろう。復活したイエスをご自分で怪力無双のヘラクレスみたいに動かしたのか、神の意志によることだったのか。古い福音書の証言からはわからない。現代のわれわれも婦人たちとおなじように驚き恐れたらう。

イエスの骸がなくなり、墓が空になっていたというのは歴史的事実だったようである。これは21世紀の頭で考えると「盗掘」ということになるのかもしれない。エジプトのミイラがそうであるように、歴代の中国皇帝の墓、もちろん日本でも天皇の墓が荒らされることはめずらしくなかった。明日香村にある天武天皇と彼の妻持統天皇陵荒らしが有名である。七〇三年、五八年の生涯を終えた持統天皇は遺言にしたがい、夫の墓に合葬された。夫の死後約二〇年後である。ところが鎌倉時代、ふたりの墓は二度にわたって荒らされた。盗掘調査報告記があるので、だれが何をしたかはわかっている。

最初は持統帝の死後五三〇年ほどしておきた。二度とも犯人(グループ)のなかにあろうことか僧

侶が交じっていた。このときの盗掘は三年後に男三人、僧侶三人が逮捕されて幕となる。一味は金銀類をごっそりと持ち去る。持統帝の火葬された遺骨を納めた「銀筥」(銀の箱)に至っては中身の骨を打ち捨てて箱だけを盗んでいったとか。(瀧浪貞子『持統天皇』)天武帝の白骨と頭骨に巻きついた白髪だけが陵(みささぎ)に残った。

さらに六〇年後、行広法師という僧がひとりで盗掘して今度は天武帝の頭骨を盗んでゆく。いったい、どうしようというつもりだったのだろう。最初の盗掘で金目のものがなくなったので腹いせだったのか…律令国家建設の立役者天武帝も顔色なしというところである。無念のあまり、この僧に化けて出たかもしれない。

最初に戻ろう。墓から消え失せてなくなったイエスの肉体、つまり骸(むくろ)が盗まれたとすると、だれが持っていったのだろう。熱心な信者だったのではないだろうか。金目当ての僧侶でなかったことだけは確かである。復活を信じないトマのまえにイエスはあらわれる。脇腹の傷跡に手を入れろ、とトマに命ずる。傷跡に手を入れたトマは復活を信じるようになる。部屋にはカギがかけてあったから扉を開いてイエスが入ったわけではない。肉体を持ちながら、同時に霊の存在としてイエスはトマにあらわれた。御力(みちから)を感じさせるではないか。御復活を祝う。

## 故ジョアンネス高橋正美さんを偲んで H.H.

去る3月15日月曜日午前4時35分、ジョアンネス高橋正美さんは天におられる御父の元に召されました。享年、81歳でした。

葬儀ミサ及び告別式は、3月17日水曜日11時30分からノイ神父様の司式により当池田教会でしめやかに取り行われました。コロナ禍が懸念される昨今の状況にも拘らず、日曜日の通例のミサと変わらないぐらいの人数の参列があり、私をご故人の人徳と池田教会の皆様の篤い友情をつくづくと思い知りました。高橋さんの最後のお顔は本当に穏やかそのものでした。

さて、私が高橋さんと初めて出会ったのは、2010年の或る秋の日曜日、この教会でのミサでした。恒例のミサの終わりで「今日初めて教会にお越しになり、または、久しぶりにミサに参列された方を紹介します」との司会者の案内で、高橋さんが名乗り出られたのです。「私は、東京の本郷教会で幼児洗礼を受け、そこの信者だったのですが、長い間教会を離れていました。実は思うところがあって、今日、49年振りに教会に来ました」と高橋さんは言いました。私は、石川県の出身なのですが、学生時代と就職しての最初の数年間の、合

わせて約10年を東京で過したものですから、東京は第二の故郷となっております。そんな訳で懐かしさの余り、高橋さんに声を掛けたのです。これがきっかけで彼と親しくなりました。

彼も私もほとんどミサを休んだことはありません。そして、共に「おしゃべりコーナー」の常連でした。ミサのあと雑談を楽しみ、帰る方向も一緒だったものですから、彼が降りる阪急売布神社駅まで会話を楽しみ続けました。そういうことですから、この10年あまり、家族以外で最も親しく交わったのは、高橋さんでした。その高橋さんともう会えないと思いますと、何とも言えない寂しさで一杯です。

実は、49年振りに教会に戻ってこられた高橋さんに、天の御父が晴らしいご褒美を下されたのです。このエピソードを是非、皆様と分かち合いさせていたきたいと思えます。

上に書きました高橋さんの言葉に反応した人がもう1人いました。2人の小さな子供さんのお母さんで武政さん(お名前は間違い無いのですが漢字は自信がありません)と言う方でした。皆様の中で覚えておられる方もいらっしゃると思います。彼女は、東京生れの東京育ちで、ご両親の代からの本郷教会の信者でした。ところが当時、ご主人が転勤で関西転勤となり、たまたま、池田に住んでいたのです。高橋さんと出会った彼女は、そのことを東京にいるお母様に話しました。なお、高橋さんが若い頃通っていた本郷教会は、その後建て替えられました。お母様は「日本郷教会の聖堂にあった十字架の道行きの木製の飾りのひとつを記念として今も持っている、高橋さんとおっしゃる方はきっとこの道行きの飾りを見ているに違いない」と娘さんの武政さんに話されました。彼女はこれを、高橋さんに伝えました。実はこの飾りは高橋さんのお父上様の手製になるもので、お父上様が本郷教会に寄

進されたものだったのです。これを知った武政さんのお母様は、「そんな縁のあるものなら、私ではなく高橋さんが持っているにしかるべし」としてこれを、高橋さんに贈られたのです。話は若干込み入りしましたが、高橋さんには、亡きお父上様の遺品とも言うべき品が、思いも掛けず、手に入ったのでした。



この話を、高橋さんは詳しく私に語って下さったのです。その瞬間、私は思いました。天の御父は何と粋な計らいをなさる方なのかと！ 私は52歳で受洗したのですが、カトリックの信仰に入っていなかった時にこの話を聞いたら、「何とまあ、偶然が重なった事か！」と思ったに違いありません。私はとっさに高橋さんに言ったのです。「あなたが教会に戻られて一番喜んでおられる方は天の御父でいらっしゃる。これは偶然の連鎖なんて言うものではない。御父はあなたの決意を嘉して素晴らしいプレゼントを下されたのだ。これは御父の粋なお計らいなのだ」。

このエピソードを聞いて、私の信仰は急に深かまったのでした。私は目下のところは元気です。しかし、歳は高橋さんの一つ上ですから、そんなに遠くない時期に天国で高橋さんと再会出来ると信じております。その時を楽しみにして、祈りを深めて行きたいと思っております。

高橋さんへ

K. S.

高橋さんともう一緒に活動できないのが信じられません。

よく一緒に活動しましたね。社会活動委員会に参加したり、釜ヶ崎への荷物運びの時は助手席に座ってくださり、東北物産販売では隣に立って声を上げたり、商品の宣伝をしてくださいました。金沢への巡礼もご

一緒しましたね。サイコロの会でも重要なメンバーでしたね。

どの場面でも、笑顔とおしゃべりと食べ物や飲み物の差し入れがありました。その全てをありがとうございました。

高橋さん、恋しいです！

